

下仁田町「街なか活性化事業」第2回検討委員会 議事録

- 日時 令和4年11月15日（火） 18時30分～20時05分
場所 下仁田町役場201会議室
出席者 検討委員 15名（2名欠席）
次第 1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
（1）事業スケジュールの報告
（2）これまでの検討内容の報告
（3）検討内容に対する意見交換
4. 閉会

■検討委員会の様子



■意見交換の内容（主な意見、感想）

- ・町にはたくさんの資源があり、多くの人を訪れている。この時期だと、妙義山や荒船山にはたくさんの登山者や紅葉を見るために人が来ている。ただ、街なかには人が来ていない。
- ・街なかに来るための仕掛けが必要。例えば、妙義山はイニシャルDの舞台であり、ファンもたくさん来ている。こうした層に響く仕掛けが必要。
- ・本当に活性化させたいのであれば、町民目線だけでなく、観光を切り口に外からの流入人口も増やさないとダメだと考える。
- ・ジオパークの会も妙義山のガイドをやっている。ガイドの際は、現地集合・解散になっているので、街なかも散策するようなツアーになるように検討したい。
- ・地域資源と街なかを繋ぐ2次交通が課題である。車で来た人は、道の駅で完結してしまい、街なかには来てくれない。
- ・街なか新しいお店が出来て、新たな層のお客様が町に来てくれるようにな

った。

- ・メディア露出は即効性が高く、すぐに人が来てくれるようになる。
- ・財布の紐を握っている方を引き込むことが重要。まずは知ってもらうことが重要だと思う。
- ・まちづくりに関して、今回とはやり方や内容は違えど、これまで何十年も議論しているが、なぜ実現できないのか。実現できていない理由を分析することも重要だと思う。
- ・住民の意識を変えてあげるだけでも動き出すのでは。必要性を説いてあげれば、人は動くのではないか。
- ・これまでの活動の中で、町民の意識改革が重要だと感じた。まずは町民がまちに対して誇りを持つこと、他人がやれば良いではなく、自分がやるんだという気持ちを持たすことが重要だと感じた。
- ・ブランド力はいまあるものをブラッシュアップするのか。ゼロから作り上げるものなのか。
- ・今回の計画は何に絞り込むのか、もう少し絞った方がよい。また、失敗しても良いという雰囲気を作ることも大切。
- ・計画の内容を町民が外の人に説明が出来るように、噛み砕いた言葉を並べてもらいたい。そうすると大人から子供まで響くと思う。
- ・今回、分科会の若手メンバーが考えてくれたことはとても嬉しい。これを全て自分事と捉え、役割を決めて、みんなでやっていきたい。
- ・地域資源を重んじることで1つのストーリーが出来る。分かりやすさ、歴史も含め、ストーリー性を取り入れることが大切だと思う。
- ・事業をもう少し絞った方がよい。1つでも良いから来年度から実現出来るものを入れて欲しい。何か1つでも出来れば、次が進むと思う。
- ・下仁田高校では、データに基づいた「まちの活性化」を検討している。
- ・今後、県内の小中高に対してアンケート調査を行う予定。データに基づき高校生の視点から「まちの活性化」を考える。
- ・下仁田高校のアンケート調査結果も今後の検討に活かす。

■まとめ

- ・今回の議論の中で、町の「地域資源」を活かすということが共通の話題。各委員から「地域資源」を出してもらい、今後、それをどう活性化に繋げるのか、ストーリーを作ることが重要。
- ・現状、取組み内容が総花的、理念的になっているので、より具体的に取組み内容を検討していく必要がある。

以上